

令和元年度第2回岡山県環境審議会政策部会 議事概要

(開催要領)

1 開催日時：令和2年1月10日(金) 10:30～12:00

2 場所：ピュアリティまきび 3階 飛鳥

3 出席者：

○委員(五十音順、敬称略)

赤井藤子、阿部宏史、岡本輝代志、沖陽子、勝山博信、河原長美、高橋正徳、永富真理、藤木茂彦/計9名(欠席1名)

○事務局(県)

環境文化部次長、環境企画課長、新エネルギー・温暖化対策室長、環境管理課長、循環型社会推進課長、自然環境課長、事務局職員

議 題	次期岡山県環境基本計画の策定について
会議資料	別添資料のとおり
議事概要	【議題】 次期岡山県環境基本計画の策定について (環境企画課長が諮問書に基づき説明)
—委員意見— 委員	・昨年度は岡山県でも災害が起こったが、最近は集中豪雨等がひどく、環境の変化が大きくなっている。社会の動きも速くなってきていると感じる。 ・現計画では、多くの成果が出ているとされているが、大きな成果があったというものはないように感じる。
委員	・現計画の成果について、もう少し具体的に説明があったほうがよい。
環境企画課長	・5段階評価で全体の平均が3であるため、おおむね成果があったという表現にしているが、個別には、成果が進んでいない施策もある。マイナスのものが一つでもあれば、成果があるという表現に違和感を抱かれる方がいると思うが、次期計画策定時、個別のプログラムについての進捗状況の検討を再度行う必要があると思っている。
委員	・現計画を策定した平成20年以降、昨年度岡山で起こった災害のように、想像を絶するような環境変化が起こっている。世界経済の伸びも、非常に厳しくなっている。計画期間が10年以上というのは、非常に難しいと思う。長いスパンで計画を策定するのであれば、その間の進め方を慎重にし、長期として策定したとしても、それを前提として、短期的にいかに修正・対応し

<p>環境企画課長</p>	<p>ていくかということを考えていく必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・真備や倉敷で発生した災害の問題を解決し、さらにそれをよい方向に向けて進めていくという具体的なやり方が見えない。「災害」、「災害に対する対応」と「災害後の回復を目指した方向性」を考えることが、廃棄物関係においても、環境面においても必要だと思う。 ・EMSなどは、成果は出ていると思うが、環境の視点で成果を出していかうとするには、今は何か窮屈になってきているような気がする。現計画は、小さなことに囚われすぎていると思うので、今度は大きなものを変えていくという視点が必要だ。それによって、成果がもっと上がっていくと思う。 <ul style="list-style-type: none"> ・次期計画の-spanは、1番最初に考えていくべきことだと思う。県の最上位計画である「晴れの国おかやま生き活きプラン」は、長期計画があるが、別に4年ごとの具体的な計画を定めており、この計画が前面に打ち出されている。単純に10年以上の-spanの計画があるとしても、もっと短期の計画も考えていかなければいけないと思う。 ・大きな視点を変えていくことは、SDGsの視点だと思うが、実現可能性に関わらず、やるべき姿を出すという形もあると思う。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現計画の体系図では、4つの基本目標がそれぞれ独立しているが、これは現実に即していない。すべてが連携しながら、オーバーラップしているというところがどこなのかということが分かるようなものがよい。 ・推進目標「環境と経済が好循環する仕組みづくり」とあるが、今は環境と経済は切り離して考えることはできない。 ・防災・減災は避けることができないため、災害が起こることによって、こういったところが影響してくるのか整理すると、県民が分かりやすいものになると思う。 ・現計画の成果に対する評価は難しいが、数値目標の達成度だけではなく、そのプロセスも評価するような形がよい。 ・県民等意識調査等については、今回も大学生、また、熱い思いをもっている高校生の声が聴けるような形をとってもらいたい。また、その診断方法が最も重要であるので、地域性、年齢層等をよく考えてもらいたい。小学生も入れてもらえるとよい。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・岡山県独自のスローガンが打ち出せれば、分かりやすいものになると思う。例えば、真庭市などで行われている木材のバイオマス発電は、地域の活性化、森林保全や地球環境の問題、自然エネルギーの課題が一度に解決できる。このようなことがテーマにならないだろうか。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・真庭市の話は、地域循環共生圏の理念に近いと思う。これは、少子高齢化への対策にもなり得ると思うので、こういったことを盛り込んでもらえると

<p>環境企画課長</p>	<p>よい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済と環境は今や相互にリンクした形で動いている。真庭市のエネルギー循環も、地域資源を活かしてエネルギーを生み出し、それをお金に換えて雇用を生み出すとともに、環境問題も解決していくものである。全国的にも成功例はあるので、参考にしたいと思う。 ・地域循環共生圏は、農村地帯や中山間部の人口の少ないところにある豊富な資源を活用し、エネルギーや生産物を生み出して、都市で消費するものである。都市と中山間や農村を含めた一つのエリアが全体で、お金と仕事が回り、環境問題も解決していく。非常にハードルが高いとは思いますが、より有効な施策を打ち出せるかどうかは課題となると思う。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今、日生のアマモが全国でも非常に評価が高くなっており、岡山の独自性としての例になると思う。その一つだけではなく、二つ、三つ積み上げていくと、岡山の地域性が発信できるのではないか。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・13年前、岡山県は環境先進県だったと思うが、最近はそのイメージがなくなっている。 ・現計画の構成等は大事であるが、岡山県の独自性が少しでもほしい。こういうことを実現し、岡山県が全国の環境問題を引っ張っていかうというようなものがあったらよいと思う。この件に関しては、他県よりも優れているということをやるのが、大事だ。具体的で、誰でも分かるようなものであれば、県民にも県の環境行政が伝わりやすい。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・世界共通の目標であるSDGs等が明確化されており、国の第五次環境基本計画も策定されている。それらとの整合性をとって、策定作業を進めていく必要がある。 ・地方分権がかなり進んでおり、県の存在が少し見えにくくなっている。県の役割をもう一度見直していく必要があるのではないか。 ・その中で、岡山県独自の特色を、全国あるいは世界に向けて打ち出していく取組も必要だと思う。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・例えば自然保護などは、市町村レベルではなかなかできない。県がやったほうが良いようなところは多い気がするので、それをもっと活かしたほうがよい。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・協働の推進として、県、市町村、事業者が一体となって取り組む必要があると記載されている。協議会のようなものであると思うが、今までに開催したことはあるのか。県の存在は薄いと思わないが、同じような目標を持ち、市町村と一緒に進んでいるという姿が見えにくい。県は取りまとめができる

環境企画課長	<p>組織であるので、そのあたりを考えてほしい。市町村との情報交換の場というのが作られているのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県の施策は、県民の方の理解と協力がなくてはできないというのは当然である。このため、県民の意見を聴く会を開催して、計画の進捗状況をNPOの方などに説明し、意見をお伺いしており、今回の計画策定の際も実施する予定である。現時点で市町村との情報交換の場はない。市町村と県は、ますます対等な関係で、ステークホルダーになりつつある。利害を調整するような場について、考える必要がある。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国が定めている計画や全国の都道府県の計画と比較して、基本的なことはそれほど大きく違わないと思う。岡山県としての独自力というのは非常に大事だと思うが、国や全国の都道府県が打ち出していないような枠組みを出すのは難しいし、あえてそこまでする必要はないと思う。しかし、枠組みは同じであっても、その中で具体的な岡山県独自の考えを探し、それについて考えることが大事だ。 ・ 過去10年だけでも、これまでになかったような様々な環境問題が起きている。柔軟に、できるだけその時々に合わせて、積極的に計画を改訂していくということも必要だ。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学生たちも環境に対する関心が高い。岡山県では「環境学習協働推進広場」事業など、子どもたちへの環境学習事業を独自に行っており、全国的に高い評価を得ていると思う。県内の多くの市町村で行っており、市町村と県とがフラットな関係で協働の推進が行えていると思う。 ・ 食品ロスについては、子どもたちが食品の製造過程を知らないことが、食品への関心が高まらないことに繋がっていると思う。身近に農業従事者が減っていることなども一因だ。子どもたちの教育のためにも、農業に対して十分な支援をしないと、さらなる自給率の落ち込み等が起こると感じている。環境の面でも、農業の担い手確保については、ぜひ協力をしてもらいたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現計画の期間の13年の間、改訂を何度も行っている。県の体制として、改訂や策定の回数についてはどうか。
環境企画課長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必ずしも人員に余裕があるわけではないが、改訂では計画の基本的骨格の変更が困難であるので、計画期間の見直しを検討していこうと思っている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ このような重要な議題で、1時間半という会議時間について疑問に思う。 ・ SDGsには、環境、経済、働き方、地域振興なども入ってきており、環境基本計画という名称ではやっていけないと思うので、名称を変えたほうがよいのではないかと。行政で最も大切なものであり、環境部局だけが対応する

<p>環境企画課長</p>	<p>のではありませんと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGsを全県的にやるとすれば、この環境基本計画の中でやり切るのは無理であり、新たな策定を予定している県の最上位計画の「晴れの国おかやま生き生きプラン」もSDGsを無視して作ることはできないと思う。「晴れの国おかやま生き生きプラン」で、環境以外の分野の考え方をどのように活用し、施策に反映していくかを考えていくと思うが、次期岡山県環境基本計画も歩調を合わせて策定する必要がある。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・企業の内部の統制可能な要素をうまくミックスして、統制できない企業の外部の環境の変化に対応するのが企業経営である。日本国内だけで対策のできない環境問題が数多くある中で、岡山で何ができるのか。 ・経済と環境を絡めたとして、環境を強化していけば、経済は厳しくなることもある。例えば、教育と環境で岡山県独自のカラーが出せるのではないか。 ・岡山県が環境分野において全国的にアピールすれば、岡山県の環境行政がよくなると思う。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・建物の場合は、大小かかわらず、必ずいつかゴミになるが、建てる時から解体して処理するまで、一貫してエコであること、リサイクルできることを評価するCASBEEというシステムがある。大阪市を初め、他の自治体で導入が条例化されてきている。循環型社会を目指すということは、循環的な使われ方をする建物も当然これからは必要になってくる。 ・環境は、街づくりという大枠で考えないと進まないと思う。空き家や空きビルについても、それらは災害が起こったら、撤去もできないし、第二次災害も起こってくる。環境だけで考えるのではなく、県全体で街として考えて、定めるものは条例として定め、厳しくするところは厳しくすることが必要。現計画のように、目標、推進、啓蒙ではなく、明確に努力義務を設けるなどそういった方向で進んでほしい。 ・環境教育については、簡単で良いので、小学校で使えるような低学年用、中学年用、高学年用の副本を作り、配ってほしい。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・環境という言葉は、様々な捉え方ができると思う。どうしても自分より外のイメージを持つので、環境という名称は使用しないほうがよいのではないか。 <p style="text-align: right;">以上</p>